

**JD Farag 牧師 中東アップデート 2017年10月29日公開****内外からのアメリカ破壊・ロードシップ・サルベージ**

今日のアップデートでは、最近ずっと私の心に重くのしかかっている事について、お話ししたいと思います。何の事かと言うと、以前の預言アップデートでもお話ししましたが、いわゆる「大きなサタン」と「小さなサタン」を、この順番で滅ぼそうとする動きが、ますます指示を得て勢いづいているのです。アメリカは、「小さいサタン」であるイスラエルを防衛する事から、「大きいサタン」とみなされています。皆さん、アメリカは「大きなサタン」、イスラエルは「小さなサタン」と見なされている事を、理解しておいてください。本当のサタンは、アメリカを内外から解体し、滅ぼす事に成功しつつある、と私は思っています。さらに踏み込んで言えば、サタンがずっと試みてきたこの目的を達成し、完全に成功するのも、時間の問題だと思えます。私がこう主張する理由は、アンティファ（反ファシズム）や、その他実に多くの集団が、アメリカを内部から滅ぼす事を目指していて、それが成功しているからです。この動きがどんどん支持を得て、どんどん勢いを増しているのです。この、アメリカを内部から滅ぼすことを目標としている動きと協調して、アメリカを、外部から滅ぼそうとする動きが存在します。イランに始まって、相応して北朝鮮です。言いたくはありませんが、どうかよく聞いてください。北朝鮮と金正恩を軽く見ていると、大変なことになる、と私は思っています。私は、皆さんを恐れさせるために、こんな話をするのではないと言う事を、どうかくれぐれもご理解ください。パウロが、テモテに書いた通り、

*“神が私たちに与えてくださったものは、臆病の霊ではなく、力と愛と憤みとの霊です。”*

*(第二テモテ 2:7)*

神は私たちに、分別と、強固な知性を与えてくださっているのです。私は、警戒をして欲しいと思っています。恐れるのではなく。現在、世界で起こっている事に、目を見張っていて欲しいのです。我々、聖書預言を学んでいる者は、特に驚きませんよね？これは、聖書が私たちに告げている事、そのままです。特に、私たちの愛するアメリカ合衆国に対して起こる事についてです。つまり、聖書預言にアメリカ合衆国が出てこないという事です。次に、聖書は数々の預言を通して、霊的にも、道徳的にも、地政治的にも、終わりの時に、世がどのような状態になるのかを、何度も何度も予告しています。私が個人的に信じている事は、また、私と同じように信じている人は、他にもたくさんいると思いますが、それは、現在の世は、キリストが教会を携挙する為に戻って来られる前、つまり7年の大患難の前、終わりの時にはこうなる、と私たちに告げられている世の状態が、まさにそのままだと思います。

今日のこの預言アップデートの時間は、「預言通りの、地政治的な国の並び」に注目したいと思います。イザヤ 17 章と、エゼキエル 38 章、2つの預言について、まずは先ほども言った、イラン、北朝鮮、それからイラン、ロシアについて見て行きましょう。まず、この鍵となる2つの預言の前、または同時に、アメリカが大国としての立場を退くことについて、お話ししたいと思います。これは、私たちが聞きたい話ではない事は、私も分かっています。しかし、恐らくこれは、私たちが聞かなければなら

ない事でしょう。北朝鮮が、イランを通してアメリカを外部から破壊するか、もしくは、アメリカを内部から滅ぼそうとする動きによるか、もしくは、その両方によって滅ぼされる、という事を前提に進めていきます。

「先生、ちょっと待ってください。アメリカが出てこない事に関して、もう一つ妥当な筋書きに、教会の携挙があるとおっしゃっていたじゃないですか？」—その通りです。しかし、それに関しては、もうしばらくお待ちください。後でその話もします。

私がお話ししたいのは、次の通りです。一旦、アメリカが図から外れると、ロシア、イラン率いる同盟国のイスラエル攻撃に、Goサインが出ると言う事の、主だった理由になると思いませんか？エゼキエル 38 章では、核攻撃が預言されています。よく聞いてください。もう一つ、イザヤ 17 章には、シリアのダマスカスの破滅について書かれています。それが、エゼキエル 38 章の預言が成就するきっかけになると考えられませんか？私はそう思った理由は、北朝鮮同様、シリアも、その終わりについて考えると、一旦その目的が果たされれば、もう用は無いのです。考えてみてください。ウラジミール・プーチンや、アヤトッラー・ハーメネイー（イラン最高指導者）や、イランの大統領ロウハーニーが、バッシヤール・アル＝アサド（シリア大統領）を気にかけていると思いますか？気にかけていませんよ。彼らが彼をずっとあの立場に置いておくと思いますか？彼らの目的が、果たされるまでの間だけです。用が終われば、それまでです。北朝鮮に対しても、同じです。イランがこの 10 数年の間、北朝鮮と親密な関係を保ってきたのは、金正恩が、壮大な男、関わり合いたい男だったからだだと思いますか？違います。彼らの中には、自分たちの究極の目的を果たす為に、彼が役に立つという考えがあるのです。究極の目的とは何か？「アメリカに死を！」ですよ。彼らが唱えているのは、皆さんもご存知ですよ。彼らは未だに明言しています。「アメリカに死を！」「イスラエルに死を！」と。分かりますか？「イスラエルに死を！」「アメリカに死を！」ではなく、反対です。「アメリカに死を！」それから「イスラエルに死を！」です。何故か？それは今、彼らがイスラエルを攻撃すると、アメリカはイスラエルの防衛にやって来るからです。だから、「まずは、アメリカを取り去ろう。そうすれば、イスラエルを攻撃できるから。」これが、エゼキエルに書かれてある事に、ぴったり当てはまるのです。面白いと思いませんか？シリアも、エゼキエル 38 章に出てこないのですよ。一旦、バッシヤール・アル＝アサドの用が済めば、シリア、特にダマスカスで、彼らの目的が果たされて、破滅すれば、そこは北側のパイプ、通り道となり、彼らはそこからイスラエルに攻めて来るのだと私は思っています。そして、エゼキエル 38 章の成就です。

そこで質問です。全ては、その通りにまとまりつつあるか？現在、国々は、これをする為の準備が整っているか？現在、これは妥当な筋書か？

それに対する答えは、「はい。」さらに踏み込んで言えば、「10 年前は、そうではなかった。」そして大事なものは、「この 10 年後は分からない。」全ての事が起こっている速度を見れば、現在配置についている国々が、この先 10 年後、まだ同じ位置に居ると考えるには、無理があると思います。5 年先でも、無理だと思います。だから私は、いつも「聖書預言には、賞味期限がある」と言うのです。「有効期限」と言っても良いでしょう。「鉄は熱いうちに打て」という、ことわざ通りです。それが出来る期間は、限られているのです。だから、聖書預言というのは、時次第なのです。彼らがそれを知らないなんて、

一瞬でも考えてはいけません。

続けてこれに関して、次の Times of Israel の記事から、お話ししたいと思います。その中で引用されている、アメリカ国防長官のジャームズ・マティスの発言です。

——「北朝鮮による核ミサイル攻撃の脅威が、加速している。」「北朝鮮はその脅威を加速させ、その違法、かつ不必要なミサイルおよび核兵器計画によって、近隣諸国と世界を危険に晒している。」——

マティスは加えて言いました。よく聞いてください。

——「従って、アメリカと韓国の軍事的、外交的協力は、**新たな緊急事項となっている。**」——

彼らは、これを深刻に受け止めているのです。それは当然の事です。それから、彼はこう言っています。よく聞いてください。

——「核保有国としての北朝鮮を、アメリカ合衆国が認めるなど、想像も出来ない。」——

わお！もし、彼らがすでに持っていたら、どうしますか？持っているかもしれませんよ。Breaking Israel News によれば、

——北朝鮮は、すでに核を保有している。——

この事は、オーストラリアの外務大臣に宛てられた、ある手紙が証拠です。その手紙の中で、北朝鮮の独裁者金正恩が、自分の国について言っています。

——「本格的な核保有国だ。」——

「止めてくださいよ。彼はピエロですよ？」—私はそうは思いません。「

私は、そんなの真剣に受け取ってはいませんよ！」—私は、そうも思いません。記事を引用します。

——手紙は、異例の形で、ジャカルタの北朝鮮大使館から、オーストラリアにある、インドネシア大使館へ送られた。日付は9月28日——

興味深いですね。

——手紙はトランプが先月行われた国連総会の演説で、「アメリカ合衆国は、強力な軍と忍耐を備えている。しかし、自国、および味方国の、防衛のために必要であれば、北朝鮮を完全に破壊する事も、いたしかたない。」と発言した1週間後に配達されたそうだ。——

マタイ 24 章でイエスが言われましたね？「戦争のことや、戦争のうわさを聞く。」と。これは、正しく訳せば「戦争のことや、戦争の脅し」です。そして、アメリカ合衆国が、核保有国である北朝鮮に対して、軍事行為を脅していますが、同様にイスラエルも、核保有国イランに対して、軍事的行動にでると脅しています。木曜日、The Jerusalem Post が配信した報告によると、

——国際社会が結果を生み出さないなら、ユダヤ人国家は、単独で行動に出る。——

主に、アメリカ大統領ドナルド・トランプの働きを指して言っています。記事を読んでもみます。

——イスラエルは、過去にも最大の味方であるアメリカ合衆国の同意なしに、一方的な行動に出た事がある。2007年、シリア内の核原子炉の疑いがあった場所の空爆、それから1981年のイラク、その他。しかしながら、イランに対する攻撃は、報復の可能性とローヤル金融市場を考えると、リスクが高い。

ところで、同盟国がイスラエルを攻撃するという、エゼキエル38章の詳細は、経済的、金融的な略奪が目的です。ということで、アメリカが北朝鮮を脅迫し、逆もまたしかり。そしてイスラエルはイランを脅し、この逆もまたしかり。シリアもまた、イスラエルを脅しています。これまた逆もしかり、です。「ものごとは、現実味をおびてきている。」と言えませんか？ものごとは、ものすごく現実味を帯びてきています。次に、YnetNewsが報道したのは、

——「シリアが、国連へ警告」。「イスラエルの攻撃の結果は、墓場だ。」シリアが、イスラエルにロケットを発射したことに対するイスラエルの報復について、シリアの外務大臣が次のように述べて、国連にイスラエルを叱責するよう要求。「イスラエルの報復は、国際連合憲章に違反する」——

本当ですか！？そちらが、イスラエルを地図上から消し去りたいのでしょ？滅ぼしたいのでしょ？イスラエルの名が、もはや覚えられないように？なのに、イスラエルが違反した？そんな事が有りえる惑星が、どこにありますか？私がこういう時は、真剣です。

これに対するイスラエルの反応は、継続されるロケットの流れ弾に対して、シリアに警告しています。ところで、あれは、流れ弾なんかではありません。流れ弾ではなく、これは意図的です。彼らは、故意にロケットを、シリアからイスラエルに打ち込んでいるのです。そして、イスラエルはシリアに警告しています。「継続されるロケット発射は、厳しい結果を招く。」

ところで、イスラエルは本気ですよ。イスラエルは本気です。これは、先ほどお話ししたイザヤ17:1に関して、良く聞かれる質問の答えになり得ると思いませんか？ダマスカスの破滅に関して、それはイスラエルの手によって起こる事も、あり得ると思いませんか？私たちがすでに知っているとおおり、イスラエルは、これまでダマスカスを攻撃してきました。大量破壊兵器がそこにある事は、諜報機関によって彼らも裏付けしています。皆さんはそれらが、サダム・フセインが支配していたイラクにあったのを覚えておられるでしょう。しかし、それらが前もって、サダム・フセインの友人バッシュール・アル＝アサドに移送されていたのをご存知ですか？そして、それらはダマスカスの地下に置かれている。病院や、学校の下に。これが、イスラエルにとっては、ジレンマなのです。これは、ある意味ぴったり当てはまりませんか？ダマスカスの破滅、それもイスラエルの手によって。たった一発のロケットを、たった一か所に発射すれば良い。そうすれば、ダマスカスは破壊されるのです。預言は実に詳細に書かれていて、そこは、完全に破壊されて、廃墟となると書かれているのです。廃墟です。つまりこれは、これらの大量破壊兵器が、全てを完全に破壊する事を示唆しています。さらに踏み込んで、例えばイスラエルがダマスカスを攻撃したとして、ダマスカスが、イスラエルによって破滅するとなれば、それをきっかけに、イランやロシア、その他がイスラエルを責めてくるとは思いませんか？どうですか？他に良い表現が浮かびませんが、かなりの引き金ですよ。

さて、記事の続きを読みましょう。

——そうしている間にも、軍首席補佐官 Mohammad Baqeri 少佐は、土曜日シリアを訪れ、2つの国（イランとシリア）が、互いの軍の協調、協力関係を高める事を理解して、覚書に調印——  
ちょっと待ってください。つまり、イランはすでにシリアに入っているという事ですか？そうです。つまり、イランはすでに始動している？そうです。彼ら以外にも、他に誰がいると思いますか？ロシアです。

——イランとシリアの協力関係は、伝えられるところによると、主に、演習訓練と実践を中心にした対戦、諜報、軍事技術にフォーカスし、両国がテロとユダヤ主義アメリカの策略に、立ち向かう能力を付けるためのものだ。——

訳すと、「アメリカに死を！」「イスラエルに死を！」この順番です。

では質問です。これら全ての口撃や脅迫は、このまま続くのか？それとも、何かが起ころうとしているのか？私は後者だと思います。何故かと言えば、誰かが何らかの形で、「預言の一時停止ボタン」を押すようには見えないからです。私から見れば、一時停止よりも、むしろすでに起こっているとおり、誰かが何らかの形で、「早送りボタン」を押すように思えます。事態は加速度を増していて、どんどん白熱しています。そこで何かが起こるには、時間の問題のように私は思えます。これらの理由から、毎週同じことを言っているようにも思いますが、私は教会の携挙が差し迫っていて、いつでも起こり得ると信じているのです。

ところで、これは私たちの祝福された希望ではありませんか？これがあるから、私たちはやっつけられるのだと思いませんか？もうすぐ、本当にもうすぐ、そのラッパがなって、私たちはここを出ていくのが分かっているのです。私たちは、これらを目撃しませんよ。私たちは、これは見ない。突然の滅びは、『彼ら』を襲うのであって、私たちではない。私たちではなく、『彼ら』が「平和だ。安全だ。」と言っているそのような時に、です。それは、ちょうど妊婦の産みの苦しみが臨む様に、『彼ら』に臨むのです。しかし、私たちにはそのようではありません。

*“人々が、「平和だ。安全だ。」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。しかし、兄弟たち。あなたがたは暗やみの中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。”（第一テサロニケ 5:3-4）*

私たちにとっては、夜の盗人のようではありません。なぜか？それは、私たちは目を見張っているからです。私たちは、イッサカル族の人達のように、自分達の生きている時代を理解して、何をすべきか知っています。そして、私たちは準備ができています。私たちは、不意をつかれる事はありません。私たちは、驚かされる事はありません。

数か月前、毎回預言アップデートの最後は、福音を伝えて締めくくると、主に促されました。そ

して今日、私は主の前に祈り、行うように主に促されたと感じているのは、私がいつも言っている事です。特に、ガラテヤ人の手紙を学んでいる現在はなおさら、何度も口にしている、救いの「前提条件」について、異なる福音です。パウロは、そんなものは福音ではないと言いました。

「なんの事を言っているのですか？」

ほら、ユダヤ主義者たちがやってきて、言いましたよね？「本当の意味で、真に救われるためには、あなた方は、割礼を受けなければならない。そうすれば、救われます」と。言いかえれば、「キリストに立ち返っても、それをするまでは救われない。」という事です。「それをすれば、救われる。」「あなた方は、救われていると思っているでしょうが、しかし、あなたには、しなければならない事があります。」ただ、現在は感謝な事に、そのしなければならない事は割礼ではありませんが。それに対して男性の皆さんは、アーメン！というでしょう。

しかし、その代わりにあるものが、「Lordship Salvation」（ロードシップ・サルベーション）で知られるものです。よく聞いてください。明確にお伝えしたい事があります。「ロードシップ・サルベーション」は、真に救われるためには、行うべき必要条件があるとして、子供にでも分かる簡単な福音を、複雑にします。これは、ガラテヤの教会で、ユダヤ主義者たちが行っていたのと全く同じです。

私が今までに読んだ中でも、最も良かった記事を紹介したいと思います。題名は、「ロードシップ・サルベーションの何が問題なのか？」これは、私の友、アンディー・ウッズ博士の書いたものです。彼とは数週間前に、オクラホマで一緒に過ごさせて頂きました。この記事は、BibleProphecyBlog.com でご覧いただけるので、ぜひ全文をお読みください。または、「Andy Woods What is wrong with Lordship Salvation?」で検索してください。彼の文章のハイライトをお読みします。

——ロードシップ・サルベーションとは、救われるための条件として、未信者がその人生の全ての部分を献身しなければならない、という考え方です。ロードシップ・サルベーションを、明確に示す別の表現は、「イエスが、全てにおいて主でなければ、彼は全く主ではない。」ロードシップ・サルベーションは、1980年代、様々な有名神学者や牧師たちのミニストリーによって、アメリカの福音派社会に大きく入り込みました。この動きは、キリスト教界にあまりにも世俗的生き方が多い事に対する、良心的な憂いが始まりです。しかしながら、このもっともな憂いに対して提示された解決策は、「世俗的クリスチャンは、キリスト主権に従っていないのだから、そもそも救われていなかったのだ」と言って、救われるための唯一の条件を増やして行きました。

個人が、自分の意思で罪から離れる、という意味での悔い改めは、救いの条件にはなり得ない。悔い改めとは、キリストに立ち返る為に、個人がその態度を変える事ではなく、その個人の、キリストに関する考え方を変えるという意味です。この意味から、「悔い改め」とは、「信仰」と同意語です。救いに関しては、キリスト個人と、その御業に対する考え方の変化であり、多くの方が、ロードシップの矛盾を単なる意味論だと見て、実生活や奉仕では、大した問題ではないと信じています。しかし実際は、ロードシップ・サルベーションは、教会の生命に、少なくとも5つの問題をもたらしています。——

そしてウッズ博士は、この5つの問題について、実に明確に言及しています。これは、皆さんも読まれると、とても参考になると思います。私には、とても参考になりましたから。ではなぜ、私は皆さんにこの話をしているのか？それは、これが大きな問題だからです。私はこの場所に立って、ずっとイエ

ス・キリスト個人にある、救いを心から説いてきました。そして私は、皆さんの誰からも、同情やあわれみを受けようとして、こう言うのではありませんが、実際ものすごく辛辣な攻撃を受けています。ここに居る皆さんからではありませんよ。特にはオンラインチャーチからです。叱責されるのです。あまりにも簡単にし過ぎている、と。そうですか？簡単すぎますか？イエスは言われませんでしたか？

“子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。” (マタイ 18:3)

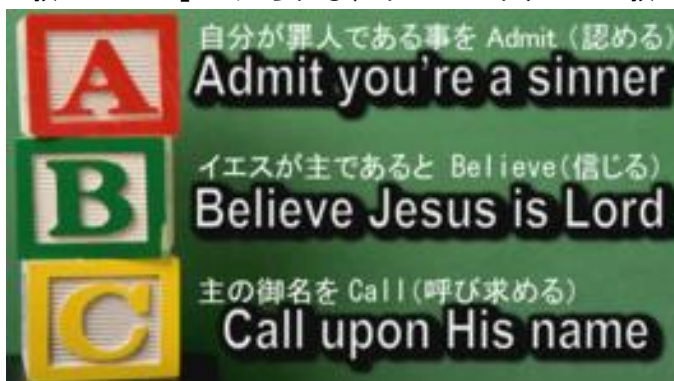
ところで、そうすることが、どれだけ高慢な事だか分かりますか？「私は、救いの場に何かを持って行こう」と言うなんて、どれだけ高慢なのか。エペソ人への手紙 2:8-9 には、なんと書いてありますか？

“あなた方は恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。だれも誇る事の無い為です。” (エペソ 2:8-9)

ああ、ロードシップ・サルベーションは、人を誇らせますね。「そうさ。」「私が救いに差し出したものを見てごらんよ。」ところで皆さん、天国に居るところを想像できますか？もし、これが本当なら、それは天国ではありませんよね？天国に行った時に、「やあ、君はどうやってここに来たの？」—「ああ、君にも見せたかったよ。」これは、天国ではありません。これは、もう一つの場所ではないかと思えます。違いますか？

35年前に、私がイエス・キリストに立ち返った時、あれが子どもにでも分かるほど簡単だった事を、神に感謝しています。でなければ、絶対に救われる事は無かったでしょう。「物理量子を知る事で救われる」とかでなくて、良かったと思いませんか？馬鹿げた描写である事は、分かっています。それでも、想像出来ますか？私たちの中の、誰が救われていたでしょう？それでは、希望はありません。私たちは、救いには、何も持たずに来たのです。私たちは、ありのままの自分で来ました。だから、私は「救いのABC」を伝えるのです。子どもにでも分かる、簡単な福音をご説明します。

「救いのABC」で知られる、イエス・キリストの救いの福音です。



**A=Admit/認める、Acknowledge/認識する**

自分が罪人であると認め、自分が罪を犯したことを認識するのです。ローマ書にはこうあります。

“「義人はいない。ひとりもない。」”

(ローマ 3:10)

イザヤはこう言いました。

“私たちの義はみな、不潔な着物のようです。” (イザヤ 64:6)

ローマ書にはこうあります。

“すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることが出来ず、”（ローマ 3:23）

“罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠の命です。”（ローマ 6:23）

“賜物”です。受け取るものであって、皆さんが勝ち取るものではなく、支払うものでもなければ、何かをして受け取るものでもありません。これは、神からの賜物なのです。

### **B=Believe/信じる**

これは、心で信じる。

「まあ、先生。それは簡単すぎますよ。」

「あなたは、安っぽい恵を提示している。」

そうですか？それは冒涇だと言っておきます。「安っぽい恵み？」その為に、私たちの主が何を犠牲にされたか。よくそんな事が言えたものです！

イエスキリストが主であると、心で信じる。ローマ書にはこうあります。

“あなたの心で、神はイエスを死者の中からよみがえらせて下さったと信じるなら、あなたは救われるからです。”（ローマ 10:9-10）

### **C=Call/呼び求める、Confess/告白する**

主の御名を呼び求める、もしくは、イエス・キリストが主であると告白するのです。

これもまたローマ 10:9-10 です。

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせて下さったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。”（ローマ 10:9-10）

「えっ?! なら、他に私がすべき事は、何もないの?!」—ありません!

「水の洗礼は?」—いりません!

「何もしなくて良いの?!」—良いのです!

イエスは「完了した」と言われたのです（ヨハネ 19:30）。

“人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。”（ローマ 10:10）

そして次が、とても簡単な、我々が行うべき、私が行った、皆さん全員が行ったと願う事です。

“主の御名を呼び求める者は、だれでも救われるのです。”（ローマ 10:13）



以上！です。コンマではなく、ピリオド。もし、あなたが、これまでに一度も、主の御名を呼び求めた事がないなら、口で告白し心で信じ、自分が罪人である事を認め、自分には救い主が必要であることを認める。どうかお願いします。今日、それをしてください。

もしこれを、世界中のどこかで、オンラインでご覧になっている方の中に、主の御名を、一度も呼び求めた事の無い人がいるなら、どうかお願いします。今日、それをしてください。

祈りましょう。

天のお父様。感謝します。あなたは、世の私たちを実に愛して下さり、あなたのひとり子を、私たちの為に、私たちの代わりに死ぬために送って下さいました。私たちの中で、誰でも彼を信じる者、口で告白する者は、救われ、滅びず、永遠のいのちを頂きます。主よ。あなたが私たちの為に支払って下さった、永遠のいのちという無償の賜物に、感謝します。主よ。この教会の中、またはこれをインターネットで観ている人の中に、一度もあなたに立ち返ったことのない人、心で信じて、口で告白したことのない人が居るなら、今日、彼らがあなたの御名を呼び求め、救われますように。今日が、彼らの救いの日となりますように。最後に主よ。最初に祈った通り、あなたはこの教会の中の、一人一人の必要、心をご存知です。もし、この中の誰でも、失望している人が居るなら、またその失望が、絶望に変わっているなら、厳しい試練に直面している人が居るなら、主よ。どうか、あなたがすぐに戻って来られるというこの約束をもって、その人を励まして下さい。彼らも

自分たちの贖いが近づいている事を知り、体をまっすぐにして、頭を上げますように。イエスの御名によって、アーメン。

---

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

へブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>  
Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by まい